
吉富望教授退職記念号の発刊にあたって

日本大学危機管理学部 学部長 福田 充

令和6年は元旦の能登半島地震から始まり、同じくその能登半島で9月に豪雨災害が発生するなど、多くの災害に見舞われた一年でした。世界に目を転じると、ロシア・ウクライナ戦争は3年目に突入し、イスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への攻撃はレバノン、イランにまで一部拡大し、そのような中東情勢の中でシリア内戦下のアサド大統領の独裁政権が崩壊しました。世界各地で洪水災害が発生し、アメリカでの山林火災も激甚化するなど、気候変動に対する国際協力がさらに求められる状況となりました。

こうした令和6年度には、開設から9年目を迎えた危機管理学部に今年度も新しい学生たちが入学し、昨年度に開設された大学院危機管理学研究科の修士課程は完成年度を迎え、この春には大学院第1期生が修士課程を修了して社会に羽ばたきます。令和7年度から大学院博士後期課程の開設も決まりました。そしてこのたび、この令和6年度をもって、吉富望教授を定年退職でお送りすることとなりました。

吉富教授は、1983年3月に防衛大学校の国際関係論専攻を卒業され、陸上自衛隊に入隊、その後、第2混成団特科大隊長兼松山駐屯地司令、内閣情報調査室内閣参事官、第1地对艦ミサイル連隊長、防衛大学校教授などを歴任されました。2015年に陸将補で陸上自衛隊を退官され、同年4月に日本大学総合科学研究所に教授として赴任されました。そして2016年4月に開設された日本大学危機管理学部に教授として着任され、その後、9年間にわたり、危機管理学部の学生の教育にあたってられました。その間、危機管理学部の研究委員長をはじめ、図書館分館長などの役職を歴任され、大学院危機管理学研究科の専攻主任として大学院運営の柱としてご活躍されました。

研究者としても、災害対策の国際協力を中心に、安全保障、国際人道支援など幅広い分野で研究を重ねられ、共著書として『世界に向けたオールジャパン：平和構築・人道支援・災害救援の新しいかたち』（内外出版：2016年）や、『防災をめぐる国際協力のあり方：グローバル・スタンダードと現場との間で』（ミネルヴァ書房：2017年）を刊行され、最近では離島での住民避難、国民保護など日本にとって喫緊の課題について実地調査を踏まえて論文や研究発表を重ねられました。

吉富教授は、日本大学災害研究ソサイエティ（NUDS）でも研究代表者を務められ、石川県と日本大学の包括連携協定に基づいた、日本大学危機管理学部チームの能登半島地震被災地視察調査のメンバーとして、能登半島地震被災地に入り視察とヒアリングを実施しました。また石川県庁とも連携し、馳浩県知事をはじめ、自治体やボランティア団体など多くの方々と協力連携を実現しました。

これらの甚大なる貢献に感謝の意を表し、『危機管理学研究』第9号を、吉富望教授の退職記念号として発刊いたします。長年の貢献に対し心より感謝を申し上げます。

吉富望教授の略歴と最近の研究業績



1. 略 歴

- 1983年 3月 防衛大学校（国際関係論専攻）卒業
- 1983年 3月 陸上自衛隊入隊
第2混成団特科大隊長兼松山駐屯地司令、内閣情報調査室内閣参事官、
第1地対艦ミサイル連隊長、防衛大学校教授などを歴任
- 2015年 4月 陸上自衛隊退官（退官時の階級：陸将補）
- 2015年 4月 日本大学総合科学研究所 教授
- 2016年 4月 日本大学危機管理学部 教授

2. 最近の研究業績

(1) 書 籍

- 『世界に向けたオールジャパン：平和構築・人道支援・災害救援の新しいかたち』（共著）、内外出版、2016年4月15日。
- 『防災をめぐる国際協力のあり方：グローバル・スタンダードと現場との間で』（共著）、ミネルヴァ書房、2017年7月30日。

(2) 論文等

- 「離島における国民保護に関する一考察：戦闘の渦中、あるいは敵の占領下に置かれた住民の保護について」『戦略研究』第36号、2025年2月刊行予定。
- 「武力攻撃下の離島における民間人の避難が抱える課題：八重山地域に焦点を当てて」『危機管理学研究』第7号、2023年3月、58-74頁。